

広報TSB

第17号

令和2年度 前期

TOHOKU SEIKATSU BUNKA
UNIVERSITY & JUNIOR COLLEGE

コロナ禍において

東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部

学長 佐藤一郎



世界は、すでに、グローバルな「地球社会」になっており、政治、経済、法律、生活文化のあらゆる領域が、互いに密接につながっています。加えて、一段とコンピュータのウェブ環境が進展し、ありとあらゆるものがリアルタイム（同時）、インターネットタイプ（双方向）につながり、世界は相互に依存する状態になってきました。

マイナスの例になってしまいましたが、たとえば、中国、日本、韓国のみならず、イタリア、スペインなどヨーロッパ諸国、アメリカへと、新型コロナウイルスによる感染拡大は、さらにアフリカを含む地球全体を覆う勢いです。

仙台市内でも、七月、八月になって、感染者が増加し、大学生の中にも、PCR検査で陽性の結果も出ています。その結果、われわれ一人ひとりが向き合わざるをえず、社会生活、日常生活にそのまま響いてきています。われわれ本学の学生、教職員も、この新型コロナウイルス感染というグローバルな「地球社会」の網目から免れることはできず、その対策に追われているのが実情です。

今年三月の百周年記念ホールでの短期大学部の卒業式は、保護者の方々は別室に待機していただき、卒業生のみ着席して行われました。式次第は、学長式辞も、卒業証書授与も時間短縮の形式になりました。また、大学の卒業式は、一時間後、六号館三階大講義室で行われました。さいわい、仙台市内の大学は軒並み卒業式中止が多かった

せいか、テレビのニュースにも取り上げられました。三密に留意し、検温、消毒も徹底して行ったのはいうまでもありません。

四月四日の入学式は、大学と短期大学部共に中止となりました。令和二年四月七日から五月二十五日までの期間、「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言」の発令にともない、対面授業の開始日を六月二十九日と設定し、同時に、前期カリキュラム期間を一ヶ月以上ずらし、八月下旬までとしました。ほとんど夏季休業はなくなっていました。

しかし、GW明けに「宣言」が解除され、美術学部では、六月から実技授業を主体に対面授業を始めました。家政学部、短期大学部は、予定どおり六月二十九日から対面授業が始まり、それまでは、ホームページに授業科目名を貼り付け、そこを通してのオンデマンド形式の遠隔授業が数多く行われました。

文部科学省は、ソサエティ五・〇を生きる、すなわちこのグローバルな「地球社会」に対応しうる人材養成が急務であるとして、データサイエンス、産学連携の授業を大学教育に取り入れることを求めています。本学においても、メールアドレスをグーグルに統一し、オンラインによる授業が行われるウェブ環境が整いつつあります。

一方、グローバル化をひたすら求める「地球社会」が覇権を握るとどこそここのローカルな地域の生活と文化であろうとも、一様化、均一化の方向に向かわせます。その結果、国、地域ごとに培われてきた伝承的および伝統的な生活と文化がそれぞれ個性を失い、ややもすると、個人一人ひとりの主体性もなくなってくるようにも思えます。

それではいけません。東北生活文化大学・短期大学部の学生たちは、グローバルな地球社会を視野に入れながらも、一人ひとりがローカルな視点を持ち、手を携えて、慈しむ真心が育まれるよう励み、その人となりの主体性が深く発揮されるよう努力しております。このようなローカルな小さな輪がどこかしこ、廻り始めると、ひいては学校社会、地域社会の活性化の道筋が見えてくるのではないのでしょうか。

大学家政学科

短信



令和二年度春・夏の家政学科の近況をお知らせします。

四月に伊藤常久教授（短大より）、高橋文講師、秋本ひかり助手が健康栄養学専攻の教員に、佐竹那美副手が新たに服飾文化専攻に加わりました。これからの活躍が大いに期待されます。

今年度の家政学科の新入生は、服飾文化専攻十八名、健康栄養学専攻四十三名、および編入学生（健康栄養学専攻三年）二名、と昨年度を大幅に上回りました。健康栄養学専攻の男子学生の増加は今年度さらに進み、十三名の男子学生が入学しました。

世界的な新型コロナウイルス禍の異様な状況で新学期を迎え、多くの学事・行事に大幅な変更を余儀なくされました。入学式は中止になり、四月六日にそそくさと新入生ガイダンスのみを済ませた後は、約一ヶ月間は休校状態で、授業を始められたのは五月十一日になりました。ただし、対面授業はかなわない状況でしたので、教材の送付とネットを活用しての遠隔授業での実施でした。初めての授業形態でしたので、いろいろと試行錯誤しながらの進行でした。六月初旬より、徐々に登校制限を緩和し、六月二十九日より全面的な対面授業の開始にこぎつけました。もちろん「三密回避」の原則

を遵守し、全員がマスクをして、至る所を頻繁にアルコール消毒して、取りうる限りの対策を施してはいたものの、いつ感染者が出るか、戦々恐々でしたが、何とか予定の授業を完遂できそうな所までこぎつけました（八月中旬現在）。

ただ、この状況下で多くの学外実習が影響を受け、実習の中止・延期が相次ぎ、一部の実習は関係省庁の指導下で学内において実施する、といった極めて異例の対応を取らざるを得ない状況です。

新入生たちは対面授業開始後、徐々に大学生活に慣れ、生き生きとした表情が見られるようになりました。四年生たちは例年にならない厳しい状況下で学外実習や就職活動を余儀なくされていますが、これらを乗り越えて一層の成長を遂げてくれるよう、教職員一同全力で支援する所存です。



大学美術表現学科 （生活美術学科）

短信



日頃から美術学部にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

昨年四月から本学に念願の美術学部美術表現学科が開設され一年が経過し新入生七十三名が入学いたしました。第八十二回河北美術展は、新型コロナウイルス感染予防で中止。第四十六回大美コンクールも中止。そのような新型コロナウイルス禍の中、保護者皆様には大変ご心配のことと拝察いたします。本学でも、様々な対策を講じて遠隔授業、対面授業を実施しています。

特に、実技の授業は教員、学生が対面で行う必要があります。まして、密にならずかつ教育効果上がるように、各授業を工夫して行っています。特に一年生に関しては、入学式、ガイダンスを行うことができませんでした。大学の様子もわからないうちに、すぐ遠隔課題、遠隔授業になりましたので友人と話をしたり、教員と親しく指導を受ける機会が不足し、不安を感じたと思います。しかし、例えば一年生「彫刻基礎」の授業に関しても、毎回ほぼ全員が受講し、安山岩と向き合い力強く石彫をしております。一年から四年生までの学生に関しては十一月までに実技の授業を対面で終了する予定でカリキュラムを組みました。その他、栗原市で雑貨店「コトリ」を開設し地域の活性化に尽力している森岡淳氏の講

演会を開催しました。「地域創生演習」に活かすことができると思います。

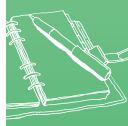
生活美術学科四年生は現在教育実習、就職活動本番を迎えています。自身の将来を見据えながら卒業制作研究に、就職活動に努力してほしいとおもいます。

今後また感染が増加することも予想されますが、適切に状況に対応していきたいと思います。今後とも皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



短大生活文化学科

短信



生活文化学科は、令和二年三月十五日に食物栄養学専攻二十六名、子ども生活専攻五十五名の卒業生を送り出しました。食物栄養学専攻では平成二十六年度から六年連続、子ども生活専攻は平成二十年度から十二

年間連続して就職率一〇〇%を達成しています。

令和二年四月、食物栄養学専攻に二十七名、子ども生活専攻に四十三名が入学し、新たな年度が始まりました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、三月以降の行事がキャンセル、変更されました。卒業式は卒業生のみ出席で簡略化して行われました。四月四日の入学式は学生のみ出席で行う予定でしたがキャンセルされ、四月六日の午前中にオリエンテーションを行った後、六月二十九日の対面授業再開まで登校しないことにいたしました。

五月十一日から六月二十六日までの間は遠隔授業を行いました。六月二十九日からは感染防止の対策を整えて対面授業を再開しましたが、今後の状況によっては再び遠隔授業になる可能性もあり、対応を検討しています。授業や資格・免許取得に関して、遠隔授業による影響を減らすよう、授業方法の改善やフォローアップに努力してまいります。

食物栄養学専攻

●二年生の実習

八月に予定されていた高齢者施設での校外実習はキャンセルされ、学内での実習に代えることになり、小学校、保育所、自衛隊での校外実習は十一月以降に延期になりました。

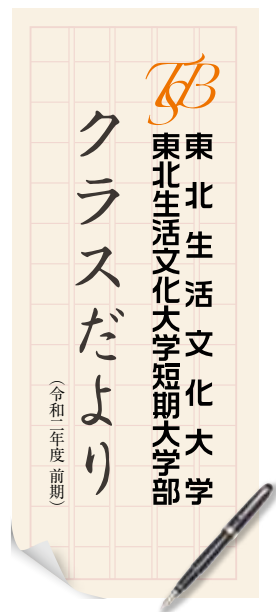
子ども生活専攻

●七月二十日～八月四日 施設実習

●八月三十一日～九月十一日 保育所実習Ⅱ

今年度六月一日から二週間予定されていた保育所実習Ⅰはキャンセルされ、学内での実習に代えることになりました。保育所実習Ⅱは六月二十二日からの予定が、施設実習の後の八月三十一日からの二週間に変更になりました。なお、幼稚園実習は十月五日から四週間の予定が十月十二日からの三週間に変更になりました。





大学服飾文化専攻 1年

入学から四ヶ月が過ぎました。例年のようなスタートを切ることはできませんでしたが、服飾文化専攻一年生十八名は、六月二十九日から始まった対面授業に真摯な態度で臨みました。スタディスキルズやスタートアップソーイングでの学習の様子を拝見したところ、クラスメイトと一緒に学べることの喜びを滲ませながら、知識や技術の習得に向けて皆懸命に取り組んでおりました。各種資格取得についても前向きな姿勢の学生が多いようです。

これからも健康と安全を第一に、一つでも多くのことを身に付けられる四年間となりますよう願っております。

大学服飾文化専攻 2年

年度の初めからコロナ禍で遠隔講義になり、やっと六月から対面講義になったのはいいものの、様々な意味で大学の通常の教育や研究活動に差し障りが出たのは事実です。しかし、服飾文化専攻二年生に関しては徐々に日常を取り戻しつつあるように見受けられます。本来であれば、例年九月に三泊四日で実施する研修旅行の準備に追われている時期ですが、この状況での実施には大きなリスクを伴うことから、延期としています。この研修旅行は一例で、後期の講義についても、まだまだ不確定要素は拭いきれない状況下、現在のところ大きな問題を抱える学生も少ないと認識しています。今回のような大学レベルではもちろん、世界レベルでの混乱もあったなか、学生たちはあつという間に二年次に進級してしまい、様々な面で頼もしくなってきたとも感じています。担任としては、この時期は中だるみに気を配るのはもちろん、学業面での厳しい自覚も促しながら、充実した学生生活を送れるよう見守りたいと考えています。

大学服飾文化専攻 3年

三年生の前期は新型コロナウイルス感染拡大の影響で前半を遠隔授業、後半を対面授業でそれぞれ行いました。

遠隔授業は学園の長い歴史の中でもはじめての経験だと思われます。学生は慣れない学習方法に戸惑いながら、何とか課題を仕上げましたが、膨大な量のプリントや資料を読み、わからなくても直接、質問することができず、相当なストレスの中で忍耐と努力を強いられました。大変、気の毒であったと感じています。学生会活動もストップした状態ですが、来年のファッションショーの実施に向けて、服飾三年生が中心となって虎視眈々と動き始めているところは流石だと感じています。

大学服飾文化専攻 4年

今年度は、コロナ禍に対する「学びの補償」として、八月末まで授業は続きます。この原稿を執筆している今、新型コロナウイルス感染症は、国内外を問わず、社会や経済に大きな影響を及ぼしております。学生たちの就職活動は、オンラインでの企業説明会や面接へと大きく様変わりし、加えて業績悪化から採用抑制の動きもみられるなど、戸惑いや不安を感じることが多いようです。このような試練のときではありますが、学生たちから進路決定の報告が届いております。

今後とも担任として、将来の夢を実現するための一助となるよう、学生一人ひとりを支えていく所存です。一日も早い新型コロナウイルス感染終息の終息、皆様のご健康をお祈り申し上げます。

大学健康栄養学専攻 1年

入学式や新入生ガイダンスもしてあげられないまま五月から遠隔授業が始まり、学生はさぞ不安だったことと思います。

しかしながら遠隔授業の課題をみると力強く書かれてあるレポートがほとんどで、学生の学びたいという気持ちを強く感じることができました。そして六月下旬から待望の対面授業がスタート。サークル活動などはまだ本格化していないため真の大学生活とは少し違いますが、学生たちが休み時間にクラスメイトと談笑する姿を見ては、ああ大学生活が始まって良かったなあと心から

思います。未曾有の困難を乗り越えて、管理栄養士国家試験の合格に向けたサポートをしていきたいと思っています。

大学健康栄養学専攻 2年

二年生は専門科目の講義や実習・実験が増え、それらの課題作成等も多くなっています。前期の遠隔授業では、当初戸惑う様子も見受けられましたが、提出期限に関しては、ほぼ全員が無事に守ることができ、自主的に学修する力も身についたようです。

対面授業の開始後は、体調管理に留意し、懸命に実習・実験に臨む姿がみられます。後期はさらに、管理栄養士を目指すための重要な専門科目が増えていきます。

新たな生活様式の下、自ら進んで学び、同じ目標を持つ仲間同士が協力し合って、共に成長していくことを、大いに期待しております。

大学健康栄養学専攻 3年

健康栄養学専攻三年生は、主に実験・実習の対面授業を八月末まで受けます。授業は、手指、机やドアノブの消毒後、マスクとフェイスシールドを装着して行われています。

また、実習受け入れ可能な施設のご協力により七月上旬より「給食管理・臨地実習」を一週間行っています。そのため、実習課題の準備などに追われているようですが、少し自分の都合を優先しがちな傾向が見受けられます。初めての校外学習のため不安な要素も多いと思いますが、この実習を通して栄養士・管理栄養士として働くことの意義を学び、成長することを期待しています。

大学健康栄養学専攻 4年

大学生活最後の前期は、新型コロナウイルス感染症の流行とともに始まりました。四月のガイダンス後は感染症対策のため、学生たちは六月下旬まで自宅で遠隔授業に取り組みました。大学での授業は、六月末より始まりました。教室ではマスク着用、手指の消毒をはじめ、感染症対策のもとと勉学に励んでいます。例年五月から始まる臨地実習や教育実習も、感染症の影響で、概ね八月以降に行われます。就職活動も、オンラインでの面接など、従来とは異なる状況が見られます。不慣れな環境の中、内定を獲得した学生も出ております。

厳しい状況にある学生たちを、ご家族の皆様とともに支えたいと思います。

大学美術表現学科 1年

これまで何度、「本当なら」と呟いたことでしょう。本当なら、入学式後にガイダンス、歓迎会が行われ、スムーズに大学生活のスタートが切れたはずでした。本当なら、今頃は、学部主催の美術展「大美コン」に向けて充実した時間を過ごしていたはずで、できなかったことややってあげられなかったことへの無念から俯き加減だった自分を鼓舞し、彼たち・彼女たちを直視できるようなったのは、つい最近のことです。笑顔がありませんでした。視線に力を感じました。この苦境が皆に強さを与えたことを直感しました。この辛い時間を後悔だけで終わらせてはいけないことを学生たちから学びました。

大学美術表現学科 2年

今まで、共通教養科目と美術の基礎科目、必修科目も多いなか皆しっかりと学習に取り組んできました。それに加えて教職科目や学芸員資格のための科目とさらに奮闘して単位を修得した学生もいます。二年生を迎え、その流れが途切れないままスタートするはずでしたが、思うようにいかない新学期となりました。面談を行い、いろいろ聞いてみると卒業後の進路について悩んでいる学生が多いようでした。自分を見つめ直す時間が持てたことによるものでしょう。自分の就きたい職業・企業について今から調べるようアドバイスをしました。それは社会に対して自分の良さや魅力「自分の売り」を見つける第一歩に繋がるからです。実は一般企業でも美術を学んだ学生や美的感性の優れた者を欲しがっています。美術と直接結びつく職業名は少ないかもしれませんが美術と結びつく仕事はたくさんあります。自分に相応しい就職先を見つけてほしいと思います。

大学生生活美術学科 3年

今年度は自粛期間解除まで遠隔授業となりました。これまで体験したことのない授業形式となったため、慣れるまで時間がかかった学生もいたと思いますが、それぞれが試行錯誤し、真剣に取り組んでくれました。通常授業が始まってからは、手洗い・

消毒・マスク着用・換気・距離を取る・無駄話をしない等、十分に気をつけながら進めています。大変な最中ではありますが、大学に来て学びたい、制作したい、友達に会いたいといった学生たちの声を聞くたびに、健康に十分に気をつけながら、できる限りのことを行い、皆で協力して乗り越えていきたいと思っています。

大学生生活美術学科 4年

本来ならば最終学年として気を引き締め、学生生活を送ることを誰もが思い描いていたことでしょう。このコロナウイルスの影響により様々な困難に立ち向かいながら、これまで大学で学んできたことの集大成ともなる卒業制作に励んでいる四年生です。

教育実習や就職活動にも影響し、何度となく挫けそうになりながらも試行錯誤している姿が多く見られます。安心して将来の自分を見据えることができるよう、残りの学生生活を担任としてできる限りサポートして参りたいと思っております。

少しでも早くこの状況が終息に向かうことを願うばかりです。

短大食物栄養学専攻 1年

今年度の食物栄養学専攻一年生は、新型コロナウイルス感染症対策のため、例年になくスタートとなりました。五月中旬から始まった遠隔授業は四週間にわたり実施されましたが、学生たちは学習や課題にもしっかりと取り組むことができました。そして、六月末からの対面授業では感染防止対策として手指消毒や毎日の検温などを徹底して行い、感染リスクを低減させながら受講しました。マスクの着用やソーシャルディスタンスなどで学生間のコミュニケーションがなかなか取りにくい状況でしたが、前期授業の後半では少しずつ人間関係を構築され「学校が楽しい」と話す学生もいました。制限がある学生生活ですが、学生たちは元気に頑張っています。

短大食物栄養学専攻 2年

今年度の前期は新型コロナウイルスの影響により、行事や授業など例年とは異なる学生生活を送ることになりました。前半は講義系の科目を遠隔授業で、後半は主に実習・実験系の科目

を対面授業で行いました。二年次では一年次よりさらに専門的で実践的になった授業を受けながら、校外実習に向けた準備にも取り組んでいます。また、就職活動も一部オンラインでの実施となり、学生はこれまでに例のない方式に不安を感じつつも、会社説明会や面接に積極的に参加し、活動を進めています。短大で過ごした約一年半の間に、いろいろなことを経験する中で、戸惑いながらも懸命に挑戦し日々成長している姿を間近に見て、頼もしく思っています。

短大での生活もあと半年となりました。クラスの仲間とともに有意義でかけがえのない時間を過ごして欲しいと心から願っています。

短大子ども生活専攻 1年

今年度は新型コロナウイルスの影響で、入学式も行われず、ひたすら自宅で遠隔授業の課題を解いていた新生入生たちでしたが、対面授業が始まって二ヶ月近くが経ち、短大の生活にもようやく慣れてきたように思います。新しいクラスメイトと楽しく話している姿などを見て、ほっと胸を撫で下ろしている次第です。ただし、コロナ禍の対面授業で、授業前後の机や手指の消毒、検温などと今までと違った習慣から、少し窮屈な思いをさせているかもしれません。その中でも保育者になるという目標に向かって、全員で支え合って頑張ってもらいたいと思います。私たち担任は、全力で皆さんをバックアップしますので、安心して学校生活を送ってください。

短大子ども生活専攻 2年

対面授業がはじまり、学生たちはキャンパスに来られる、友人に会える、教室で授業を受けられる喜びを実感しているようです。二年生は新型コロナウイルス感染症の状況に左右されながらも、限られた時間で実習に向けた学習準備を積み重ねています。今年度の本実習は、多くの学生が施設実習からのスタートとなりました。実習巡回に出かけた際、慣れない施設の業務に緊張しつつも非常に頼もしい一面を見ることができました。

緊張感のある二年目となりました。短い短大生活の終わりも近づいてきます。実習や補講の関係で忙しい夏になっていますが、何とか乗り越えられるようサポートしてまいります。

大学 家政学科 講師

高橋 文

専門分野: 臨床栄養学

主な担当科目: 臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ、臨床栄養指導論Ⅰ・Ⅱ、
臨床栄養学実習Ⅰ・Ⅱ、臨床栄養学臨地実習Ⅰ・Ⅱ



私の研究は、臨床栄養学分野の中でも高齢期栄養に着目し、『嚥むこと』『飲み込むこと』が難しくなってきた高齢者の低栄養について研究しています。具体的には、加齢に伴う咀嚼や嚥下などの口腔機能の低下による、摂取食品の種類や頻度の変化が身体に与える影響について研究しています。

宮城県の名物といえば、『牛タン』『せり鍋』『ずんだ餅』など美味しいものがありますが、加齢とともに歯の喪失や義歯の使用などにより『牛タン』『せり鍋』を嚥むことが難しくなったり、徐々に飲み込むことが難しくなると『ずんだ餅』がのどに詰まりやすくなったりと、咀嚼や嚥下機能の低下は、食事の楽しみの喪失に加え、摂取食品が制限されることで、必要な栄養を摂ることが困難となり低栄養を招きやすくなります。

特に介護を必要とする高齢者は様々な疾患による身体や口腔機能の低下が、『食べること』や『栄養を摂ること』に大きな影響を与え、低栄養状態に陥りやすいといわれており、要介護高齢者施設の利用者における低栄養状態の出現率は、3割以上であるという報告もあります。

高齢者の栄養状態の改善にはこれらの問題に応じた対策が必要であり、この研究課題に取り組む必要性を切実に感じています。

可能な限り口から食べることを維持し、低栄養の予防に努めることは生命予後の改善や身体機能低下の予防に加え、高齢者の生活の質の向上にも繋がるものとなるため、とても重要なことだと思います。

今後もこれまでの研究の成果と医療や介護現場で培った経験、そして、様々な分野の研究者の協力を得ながら、高齢者における栄養状態の維持・向上に寄与するための方策を示していきたいと思っています。

大学 美術表現学科 教授

鶴巻 史子

専門分野: 情報デザイン学

主な担当科目: メディア芸術基礎Ⅰ・Ⅱ(分担)、情報デザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ、
技法研究Ⅰ・Ⅱ、卒業研究Ⅰ・Ⅱ、スタディスキルズ(分担)、生活美術特別講義(分担)



私は大学入学から修士課程までの6年間で多摩美術大学で学びました。学部ではインターフェースデザイン、修士課程では情報デザイン、博士課程は九州大学で学び、芸術工学の視点から芸術とデザインについて専門的に学びました。芸術の一分野である「デザインにおける研究とは何か?」について意識し始めたのは修士課程の頃だったと思います。

修士課程では、NTTコミュニケーション科学基礎研究所と共同で「協働作業支援ツール」の開発を行いました。私の担当は、操作画面の設計や構築とアイコンやボタンなどのグラフィックの制作でした。自分が描いたデザインをプログラマーの方々が実装して下さり、実際に使用できる巨大な試作品が出来上がった時の嬉しさと感動を今でも覚えています。実装した試作品を実際に被験者に使用してもらい、被験者の使用感を元にデザインや操作方法を検証し、更にブラッシュアップして完成させたという経験が、私にとってのデザイン研究の最初の一步となりました。形や色をデザインするだけでなく、ユーザーを知ること、ユーザーの行動を観察し、分析するといったスタディを経験してデザイン研究ってこんなに楽しいんだ!!!と体感しました。現在は、古い時代に創られた伝統的なこけしの再現と創生のプロセス解明に取り組んでいます。

研究テーマが変わっても、ヒトとヒト、ヒトとモノの間で何が起きているのか、どんなカタチの関わり合いが形成されているのかを理解し、視覚的に分かるようヴィジュアル化するプロセスこそが、私にとっての「芸術の中にある知」だと感じています。これからも「芸術の知」を見つめていきたいと思っています。

私の研究

短大 生活文化学科 准教授

木下 ゆり

専門分野: 栄養指導

主な担当科目: 栄養指導論、栄養指導論実習、
ライフステージ栄養学実習



私は1995年に阪神淡路大震災を経験し、たくさんの方々に助けていただきました。いつか恩返しをしたいと思っていたところ、東日本大震災後に福島の高専で、教育研究に携わる機会を与えていただきました。今年度から、本学の食物栄養学専攻に勤務しています。どうぞよろしくお願いいたします。

私の専門分野は「栄養指導」で、栄養士免許取得に必要な科目を担当しています。栄養士として、対象者の年代・ライフスタイル・病態に応じて、栄養相談・栄養教育・食のプロデュースをできるように、実践的な授業を行っています。

私は大学卒業後、管理栄養士として病院やHIV陽性者の方々を支援するNPO、国際協力の現場で、様々な背景の方々の栄養支援に携わってきました。2007年度から栄養士養成課程の高専で、臨床栄養学・栄養指導論・公衆栄養学などの授業を担当し、学生たちと地域で栄養教育・食育活動、料理教室、商品開発を行ってきました。研究テーマは、HIV感染症の栄養管理とQOL評価、栄養教育プログラムの実践と評価、東ティモール・カンボジアの子どもの栄養改善などです。現在は、震災後の福島県における、高齢者の生活の質(QOL)と健康・栄養の関連について研究しています。

「栄養指導」といって、説教されそう、上から目線、押しつけといったイメージがありますが、いくら相手の健康や命に影響する重要な情報であっても、受け入れてもらえなければ意味がありません。親しみやすく、ワクワクしながら楽しく学んだ方が、教育効果があります。学生たちが将来、栄養士として働いた時に、魅力的でわかりやすい教材・媒体(すごろく、かるた、輪投げ、遊び、しかけ、手品、実験、実演、模型、シアター、レシピ、料理など)を活用し、対象者に合わせてコミュニケーションをとれるように、応援していきたいと思っています。

短大 生活文化学科 講師

山沢 智樹

専門分野: 教育学、教育行政学、地域教育運動

主な担当科目: 教育原理、保育原理、教育・保育制度論、教育課程論



大学のゼミ、卒業論文以来、「『地域に根ざした』学校、教育とはどういうものかを言うのだろうか?」ということを考えています。

学校や保育所それぞれにおける教育や保育は制度上においても、その地域や地域社会の「実態」や「状況」を考慮するということになっています。さらに、とりわけ最近30年間の教育政策において、学校と家庭や地域との連携が強調されてきています。この、「実態を考慮する」、「連携する」といった際には、いく「子どものしあわせ」のためといっても、学校や保護者、地域住民それぞれからの「片思い」のぶつけ合いや遠慮のし合いて終わってしまっては意味がありません。子どもが学校や地域で豊かに育つための共同関係をいかに構築することができるのかということにとりわけ関心を持って研究しています。

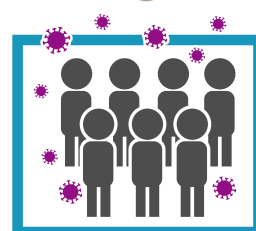
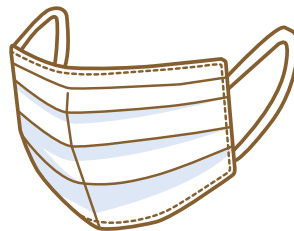
戦後日本の教育や学校にかかわる歴史のなかで地域に関わって、子どもたちが自分たちの暮らす地域について調査する、教師と保護者、地域住民が子どもや教育について語り合う地域の懇談会、子どもたちの暮らしや地域の状況から学びを立ち上げていくような実践は実は、数多く存在します。これらの実践はやらなければならないものではなく、学校や教育について深く考えるなかで行きついたものでした。研究では主に、そういった実践の蓄積のなかにこそ「共同」の肝があるのではないかと、日本各地の地域を舞台とする教育実践や教育運動の記録を探したり、読み直したりしています。

資料を眺めていると、わたし自身の被保育・教育体験からだけでは考え付かないような、ユニークな実践や教師・保育者像と出会い、驚きの連続です。研究での発見を授業に生かし、保育者や教師を目指す学生たちには、自由な発想で、自分自身の保育や教育のこだわりを持ってもらえればと考えています。

保健センターから



「手洗い」 「マスク」 「3密回避」



新型コロナウイルスの新規感染者が再び全国的に増加しているため、宮城県と仙台市が感染防止のキャンペーンで呼びかけている標語です。すでに励行している皆さんも多いと思います。とても単純で簡単な感染防止策なので、ついつい忘れがちになったりするかも知れません。関西の知事さんが「我々は新型コロナに対する武器を持っていない」と申されましたが、この3つの対策のうち「手洗い」こそが簡単で誰でも持てる武器になります。石鹸と流水が基本になりますが、手指に付いているウイルス量は流水だけでも1/100に減らせます。20～30秒間、石鹸と流水で手洗いすれば1/10000まで減ってしまいます。

ところでウイルスが手に付いただけで感染は起こるのでしょうか？答えはNoです。ウイルスの付いた手が口・鼻・眼に触れることにより感染が始まります。そのため手指にウイルスが付いたとしても「手洗い」またはアルコール消毒によって感染は防げることになります。

「マスク」は花粉程度の大きさならばブロックできますが、ウイルスのような小さな病原体は通してしまいます。ではなぜ「マスク」着用が推奨されるのでしょうか？それは会話している時に、ウイルスを含んだ唾液の飛沫をブロックできるからです。さらにウイルスが手指に付いたとしても口や鼻に触れる機会を減らせるからです。

暑い夏の時期は熱中症患者が増えて、その症状が新型コロナ感染の症状と似ているため見分けが付きにくく、医療機関でも対応に苦慮しています。しかし熱中症だと水分と塩分を補充して体を冷やせば症状が改善します。夏季はこまめに水分と塩分を摂って、熱中症予防に努めることが勧められます。

そしてこれから、秋～冬へと寒く乾燥した季節がやってきます。ウイルスにとっては最適な季節になってくるので、新型コロナだけでなく、今まで毎年流行しているインフルエンザやノロウイルス、風邪(これもコロナ)ウイルスの感染にも注意が必要になります。しかし、私たちは今回の新型コロナ感染で身につけた感染防止策によって、ウイルス感染を減らすことができます。このキャンペーン標語を実践してウイルス感染症を乗り越えましょう！

人事異動

新任の教職員

大学講師 高橋 文

大学助手 秋本 ひかり

大学副手 佐竹 那美

短大特任教授 宮地 洋子

短大准教授 岡崎 善治

短大講師 木下 ゆり

高橋 恵美

米川 純子

山沢 智樹

短大契約助手 松崎 加菜

大学教授 土井 豊

大学准教授 福岡 敦子

短大教授 三浦 主博

短大准教授 山崎 敦子

短大講師 山崎 敦子

三宅 真優子

短大契約助手 大滝 友美

退職の教職員

大学教授 土井 豊

大学准教授 福岡 敦子

短大教授 三浦 主博

短大准教授 山崎 敦子

短大講師 山崎 敦子

三宅 真優子

短大契約助手 大滝 友美

PHOTO ALBUM

(令和2年度 前期)



名誉教授称号授与

昨年度で退職された大学の土井豊先生、短大の三浦主博先生に名誉教授の称号が授与されました。長きに亘って、本学園にご尽力いただきました。



スチューデント・アシスタント(SA)初任者研究会

SAとは、教育補助業務を行う学生の名称で、在学する優秀な学生に対し、大学教育の充実及び指導者としてのトレーニングの機会の提供を図るものです。



対面授業スタート

6月29日、遠隔授業を続けていた本学ですが、約3ヶ月ぶりに大学・短大揃って対面授業が開始されました。



キャリアサポートI

7月9日、(株)東洋経済新報社編集局編集委員の田宮寛之氏を講師にお招きし、「『業界地図』と『就職四季報』を活用した業界・企業研究セミナー」を開催しました。



来場型個別相談・見学会

7月11日、コロナ禍の影響により、オープンキャンパス開催を断念。代替として3密を避けた「個別相談・見学会」を開催しました。



高校生のためのデッサンセミナー

今回は、受験を検討している高校3年生を対象とし、実施日も分け、なるべく密にならないよう留意したセミナーとなりました。



オープンキャンパス

やっと梅雨明けした8月2日、オープンキャンパスを開催しました。6月はWEB上での開催、7月は個別相談会という形式でしたので、来場型としては今年度初の開催となりました。



食物栄養学専攻「給食管理実習Ⅱ」

対象者に適した栄養量や献立、価格であることはもちろん、喫食者の楽しみになるような給食の提供をできるようにする授業です。



服飾文化専攻「服飾生活特別演習」

平塚聖子客員教授を招き、「ファッションにおけるクリエイション」と題した講義。学生たちは、素材の特性と衣服の創造プロセスを学びました。

就職支援センターから

◎コロナ禍における就職活動

新型コロナウイルス感染拡大という異常事態における大学4年生及び短大2年生の就職内定状況と、現場で仕事をして感じることを報告します。

まず、大学・短大の7月31日現在の就職内定状況を報告します。大学が36.7%(前年同月比10.3%減)、短大が17.3%(対前年同月比0.2%増)です。各学科・専攻別では、服飾文化専攻11.1%(63.9%減)、健康栄養学専攻59.4%(4.4%増)、生活美術学科10.5%(14.5%減)、短大食物栄養学専攻42.3%(9.6%減)、短大子ども生活専攻4.1%(4.1%増)です。約3ヶ月間企業の採用選考活動がほぼストップしていたにも関わらず、大学健康栄養学専攻と短大食物栄養学専攻の健闘が光ります。また、子ども生活専攻は現在実習中で、本格的な就職活動は11月以降になりますが、保育士・幼稚園教諭求人の需要は非常に活発で、卒業までにはほぼ100%の内定が確保できる可能性が高いと判断しています。

このように、各学科・専攻で就職内定状況が大きく異なる理由は、新型コロナウイルス感染拡大の影響が業界によって大きく異なることが挙げられます。例えば、毎年多くの卒業生が就職するアパレル業界は、大手企業のレナウンの経営破綻や、オンワード樫山が700店舗以上の閉店と今年度の新卒採用中止を決めるなど大きな影響を受けています。

このような状況の中で、オンライン通販やICT関連が大きく業績を伸ばしています。また、環境問題や老朽化したインフラの補修などの社会問題を解決する業界が脚光を浴びています。社会が大きく変化している現代、少し見方を変えてみると選択肢と未来が広がると思います。